

市川レポート

日本株を見通す上で注目しておきたい10月の重要イベント

- 中東情勢・原油・物価の動向に注目、10月は日米とも利上げ見送りで日本株に波乱なしとみる。
- 決算は日本企業の好業績の持続性、米AI・半導体関連企業のクラウド事業の業績などが焦点。
- 10月の日本株は底堅い推移を予想するが米中間選挙の不確実性がいくらか上値を抑えることも。

中東情勢・原油・物価の動向に注目、10月は日米とも利上げ見送りで日本株に波乱なしとみる

今回のレポートでは日本株を見通す上で注目しておきたい10月の重要イベントを整理します（図表）。まず、中東情勢について、ホルムズ海峡とイランの核問題を巡る米国とイランの立場は依然隔たりが大きく、戦闘終結の道筋はみえない状況です。ただ、中東からの原油輸送量は両国の戦闘開始前の8割弱まで回復したとの報道もあり、戦闘終結に向けた協議が難航しても、原油の供給が続く限りは、価格の急騰は避けられるとみています。

原油相場が落ち着いた動きとなれば、日米で利上げ観測が幾分後退し、長期金利の上昇圧力も和らぎ、日本株には好ましい状況となります。なお、物価は引き続き注目材料で、9月分の消費者物価指数（CPI）は、米国で10月14日、日本で23日に発表されます。日米の金融当局は、原油価格とCPIの動向を見極め、慎重に利上げの判断を行うと思われますが、弊社は日米とも10月の利上げは見送りと予想しており、日本株に波乱はないと考えます。

【図表：日本株を見通す上で注目しておきたい10月の重要イベント】

日程	イベント	日程	イベント
1日	日：9月日銀短観、日銀主な意見（9月17日、18日開催分）	16日	日：植田総裁（内田副総裁代読）全国信用組合大会における挨拶
2日	米：9月雇用統計	21日	米：テスラ決算発表
5日	日：臨時国会召集	23日	日：9月消費者物価指数
6日	日：植田総裁全国証券大会における挨拶	27日	日：信越化学工業決算発表、米：FOMC（28日まで）
7日	米：米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（9月15日、16日開催分）	28日	日：アドバンテスト決算発表、米：マイクロソフト、アルファベット、メタ決算発表
8日	日：日銀支店長会議、さくらレポート	29日	日：日銀金融政策決定会合（30日まで）
14日	米：9月消費者物価指数、蘭：ASML決算発表		米：アップル、アマゾン・ドット・コム決算発表、韓：SKハイニックス決算発表
15日	日：小枝審議委員熊本県金融経済懇談会における挨拶、台：TSMC決算発表	30日	日：東京エレクトロン、SCREENホールディングス決算発表、韓：サムスン電子決算発表

（注） いずれも主な重要イベント。日程は変更の可能性あり。
（出所） 各種資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

決算は日本企業の好業績の持続性、米AI・半導体関連企業のクラウド事業の業績などが焦点

日本では10月下旬から3月期決算企業の中間決算発表が本格化し、27日に信越化学工業、28日にアドバンテスト、30日に東京エレクトロンなどが決算を発表します。中東情勢の不透明感とコストの上昇が続くなかでも、前回4-6月期の決算は総じて良好な結果となり、2026年度は順調な滑り出しとなりました。この流れが続き、会社予想の上方修正が顕著にみられるか否か、また、配当や自社株買いの動向などにも注目が集まります。

米国でも同じく10月下旬から企業決算シーズンを迎え、特に人工知能（AI）・半導体関連企業の業績が市場の焦点になっています。10月28日にマイクロソフト、グーグルの親会社であるアルファベット、メタ、29日にアップル、アマゾン・ドット・コムが、また、欧州・アジアでは14日にASML、15日にTSMCが決算発表を予定しています。決算では、クラウド事業の業績や設備投資の動向、半導体需要などへの関心が高まっています。

10月の日本株は底堅い推移を予想するが米中間選挙の不確実性がいくら上値を抑えることも

なお、10月のイベントではありませんが、11月3日に米中間選挙が実施され、現時点の各種世論調査では、上院は共和党、下院は民主党が優勢です。市場では、下院で過半数議席を占める党が民主党に変われば、追加的な財政支出は抑制される一方、引き続き共和党なら追加的な財政支出が実施される可能性が高いとの見方もあり、中間選挙を巡る不確実性が、10月に株価の重しとなることも予想されます。

以上をまとめると、米国とイランの協議は難航が見込まれるものの、原油供給が途絶える恐れは小さく、少なくとも原油価格急騰は回避されると思われます。また、日米の金融当局は物価動向を慎重に見極め、利上げを急がず、そして、日米とも企業業績は全体的に良好な内容が確認される公算が大きいと考えています。したがって、10月の日本株は底堅い推移を予想しますが、米中間選挙の不確実性がいくら上値を抑える要素になるとみえています。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



三井住友DSアセットマネジメント